社会福祉法人慧誠会　特別養護老人ホーム帯広けいせい苑

雇用促進・就労定着 project

令和５年１０月現在

業　種：老人介護
職員数：100 人

帯広 けいせい苑

・特別養護老人ホーム
・短期入所生活介護事業所
・デイサービスセンター
・グループホーム
・生活支援ハウス
・地域包括支援センター
・居宅介護支援事業所

住　所：〒089-1182 帯広市川西町１線 47 番地
電　話：0155-59-2952
ＦＡＸ：0155-59-2955
Ｈ　Ｐ：
https://keiseien.or.jp/facilities/obihiro_keiseien/
事業内容　：老人介護

【歴史と沿革】
昭和 62 年に特別養護老人ホーム帯広けいせい苑開設。平成 15 年にはユニット型を開設し、定員 110 名（従来型 71 名　ユニット個室 39 名・短期入居ユニット個室 5 名）の規模となりました。また、デイサービスセンター・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターを併設し、地域の方に開かれた場所になれる施設を目指しています。

【法人内の障がい者雇用状況】

法人雇用率　2.35%
（雇用率は法人での換算）

Interview　障がい者雇用を始めるまでの経緯

障がい者雇用について

昭和 62 年に帯広けいせい苑を開設しました。同じ敷地内に、障がいをお持ちの方が利用する帯広ケア・センターがあり、ご利用者に特養での洗濯やお掃除を行って頂いてた経緯があります。施設は慢性的に人手不足です。障がい者のある方の雇用では、その方に得手不得手があるため、得意が活かせる仕事を考えて担当してもらっています。
今後も、高齢者の方々とのふれあいもある中で働いてみたいと思う方に来ていただきたいと考えております。見学や実習も受け入れております。当苑での経験を次に活かし、就職の継続や、また次への就職に繋がることも一つと考えます。

【障がい者別内訳】
・身体障がい　２名
・知的障がい　２名



施設長
高崎なつえ

障がい者雇用の進め方

ここが POINT！

① **見学や体験**は、施設の雰囲気や一緒に働くかもしれない職員と一緒に過ごして頂く時間を通しながら、
お互いにこれから何を担当していただけるかの想像を膨らませます

② **就職面接**は、この先担当する職員が対応します
お互いに意思確認の大事な場面で、率直な質問と意見を聞けるようにしています

③ **就職後担当者１名**　身近にいてサポートをする職員を配置しています
徐々に、頼れる人やご本人に関わる人を増やしていきます

④ **第三者サポートチーム**
就職前に利用していた福祉サービス事業所の支援員さんなど、職場以外のサポート員の協力を頂くいています。
仕事内容の相談、職場で言えなかった悩みや生活、健康状況の把握等情報共有やアドバイスを頂いています。

社会福祉法人慧誠会　特別養護老人ホーム帯広けいせい苑



制度について

トライアル　・・・トライアル雇用助成金
ＪＣ　・・・職場適応援助者(ｼﾞｮﾌﾞｺｰﾁ)

採用年月：令和４年５月（採用当時 21 歳）
知的障害（療育手帳 B）
所属部署：総務
雇用形態：非常勤

雇用までの流れ
＜プロジェクトスタイル実習＞
・体験実習
令和３年 10 月 12 日～15 日
・スキルアップ実習
令和３年 11 月８日～19 日
・マッチング実習
令和３年 12 月 13 日～24 日
仕事の内容：
施設内外の清掃等

雇用までの流れ
ご本人のやる気や仕事とのマッチングを見るために３回の実習を行いました。
体験実習は清掃の仕事を通し、働くモチベーションを高めていくため、スキルアップ実習は清掃の仕事が向いているかを確かめるため、マッチング実習は雇用を考え、仕事内容や職場環境があっているかを確かめるために段階を踏んで行いました。
その際に、就労移行支援事業所担当者からの支援を受け、仕事の組み立てを行いました。



現在は、施設内外の環境清掃を行っています。仕事をしてよかったことは、ご利用者とお話したり、自分の仕事が「ご利用者の為に役立っている」と感じることができるのでやりがいを感じています。

今の仕事が利用者のためになっていると感じやりがいを感じています。



挨拶や言葉遣いなど研修を受けたことがとても今は役に立っています。



雇用の際にした配慮や
体制づくりについて
企業担当者と、就労移行支援事業所担当者が、実習期間中に、作業工程で得意とするところと、課題とするところを分けることや、チエックシート作成し、本人にお伝えしています。その中で、本人ができるように少しずつ進めて行かせて頂いてます。

障がい者雇用を通じて感じていること

職場での実習経て雇用させて頂いていることが多いですが、仕事を覚えようと努力する姿を見て、働くことの基本を我々が気づかされる思いです。また、職場としては、実習生を受け入れることで、仕事の役割分担や作業手順の見直しの機会にもなっております。人材不足の中、専門職の他、障がい者や介護アシスタント等の方々の採用により解消されることを期待しています。障がい雇用についても、当施設での仕事のやりがいを感じて頂き、長く勤めて欲しいと考えております。